

はじめに

建設事業では、GALS/EC事業が推進され、情報の標準化と電子化が急速に行われている。地質をとりまく環境でも標準化が進展し、地質図・地質情報の電子化も避けて通ることのできない緊急の課題である。全地連では、こうした時代の要請に対応してこれまでに、業界標準としての地質データの標準化に向けての作業を行い、その成果はすでに国土交通省の要領(案)に反映されてきている。しかしながら、「土木地質図」についてはこれまでは現場ごとに専門の地質技術者が対応し、専門家内での暗黙知としての「土木地質図」はあったが、電子化を前提とした標準は存在しなかった。

このような背景から、全地連では、この問題に関するワーキンググループを組織し、地質調査成果品の重要な要素である「土木地質図」について電子化を前提とした標準化作業を進め、その内容を整理した。

作業では、土木地質図の定義、適用性を検討し、土木地質図への要求事項の整理した。その上で、地質用語、用法等の体系的な整理、標準化をおこなった。この際、以下に示す地質に関する世界および国内基準を参考にした。

IS0710	詳細な地図、平面図及び地質断面図に用いる記号
ISO/FDIS14689	土木における地盤工学－岩の判別と記載」
ISO/TC211	地理情報標準
JIS A0204:2002	地質図－記号、色、模様、用語及び凡例表示
TR A 0018	地質図－ベクトル数値地質図の品質要求事項
	地質調査資料整理要領（案）

Geologic Data Subcommittee Federal Geographic Data Committee :“Public Review Draft - Digital Cartographic Standard for Geological Map Symbolization, April 2000”

成果のとりまとめに際しては、標準化の過程で「現場ごとに特徴ある重要情報が失われないこと」、すなわち「現場が困らない」ことを共通認識とした。具体的には国際的な分類基準に沿った体系化を進めながら、現場観察による「フィールド名」を基本とし、慣習的に使用している古い名称を整理した。コード化では、「地質調査資料整理要領（案）」を基本とした。地質模様はIS0710との対比をおこなった。形容詞句では、利用頻度の高い「風化・変質」を、記号でも同様に、「風化・変質」を表す記号をそれぞれ追加した。

最後に、今回の検討結果を踏まえ、「土木地質図」を中心に地質情報の電子化の課題について整理した。